

日 韓食文化交流の「キムチづくり体験」が、2月27日に中央公民館前で開かれました。この日、上野焼開祖のゆかりの地である韓国泗川市から農協関係者ら11人が来町。下ごしらえや隠し味の秘けつなど、三種類（白菜・大根・きゅうり）のキムチづくりが手ほどきされ、ステージでは韓国の伝統芸能である舞踊や演奏が披露されました。肌寒い2月、平日の午前中にもかかわらず、町内からは300人の人出があり、集まったみなさんは本場韓国の味と文化に親しんでいました。



3百人が本場韓国の味を家庭に【日韓食文化交流】
 主催／上野の里ふれあい市 共催／福智町議会観光促進特別委員会、福智町、JAたがわ赤池・金田・方城
 마의맛 (おいしい!)
マシツソヨ
キムチづくり



▼町長に就任して一年が過ぎようとしていく。気持ちの高まりを抑えつつ、役場の玄関をくぐり執務室に向かったのが、つい昨日のことのように思える。しかし、わたしにとって、密度の濃い一年間であった。タウンミーティングや集会等を通して多くの人と出会い、いろんなご意見や思いを頂戴した。中には、行政推進の貴重なヒントとして拝借させていただいたものもある。改めて、人と会うことの大切さを学んだ一年であったと思う▼ところで、先月二十日に閉会した三月議会は、昨年の合併時から在職している議員最後の定例議会であった。町民代表である議会と選挙で選ばれた町長を責任者とする行政は、車の両輪の如く、町の振興発展を図っていくかねばならないと言われている。程良い緊張感と相互理解を基軸に、互いの意見や考えを聞かせ、まちづくりにとっていい環境をつくり出す——それが望ましい関係だと思う。もちろん私利私欲を捨て、町民のためにという視点を持ち続けることが、町長や議員に課せられた最低限の責務だと理解している。正直なところ、手厳しい指摘や的を射た意見をいただいた時には、心の中で思わず頷いたり、謝ったりしたこともある▼今回の統一地方選挙で、福智町議会は二十人になる。どのような議会構成になったとしても、議会と協働して、ふるさと福智町の輝かしい明日のため、全力を尽くしたい。

浦田 弘二